

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取組について

小城市立牛津小学校

今年の4月、6年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思います。ただ、本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年と限られた学年が対象であり、教科は国語科、算数科・数学科、理科の三教科です。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、そのことをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語科、算数科、理科以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めています。

## ■調査期日

令和7年4月17日（木）

## ■調査の対象学年

小学校6年生児童

## ■調査の内容

### （1）教科に関する調査

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に関わる内容。

### （2）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・朝食の様子、自分についての振り返り、読書時間、タブレットの活用度など生活の諸側面等に関する調査
- ・国語科、算数科、理科への興味・関心、授業内容の理解度やテストの日程等に関する調査

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 国語 》

### 全体の概要

- ・国語科の平均正答率は、県平均とほぼ同じであるが、全国平均からは下回っている。
- ・評価の観点で見ると、「知識・技能」は、県平均、全国平均とほぼ同じ、「思考・判断・表現」は、県平均とほぼ同じであるが、全国平均からは下回っている。特に、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関して全国平均より大きく下回る結果となっている。
- ・問題を最後まで読まずに、問題の意図（意味）を理解しないまま答えた児童が多く見られる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常の漢字練習の結果が実を結んでいる。</li><li>・長文のテスト問題を時間内に解くことに慣れていないため、時間配分が難しく、最後の問題での無回答が多かった。</li><li>・各教科の文章問題に対して、問題を注意深く読んだり、題意を的確に読み取ったりする力に課題がある。</li><li>・問い合わせの意味を理解せず回答している誤答が多く見られた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学期末の50問テストに向け、意欲的に学習に取り組む児童が多いので、今後も繰り返し練習することで知識の定着につなげていきたい。</li><li>・授業で扱う問題や課題に対して、問題文を音読したり、キーワードに線を引いたり、自分の言葉で読み返したり、要約したりする活動を取り入れ、問題文を丁寧に読み解く習慣が身につくようにしていく。</li><li>・書くことでは無回答が多いため、まとまりのある文章を書く練習の積み重ねが必要。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・話すこと・聞くことに関しては、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができている。</li><li>・文章問題において、正答に必要なキーワードを活用しながら、自分の考えを的確に表現する力に課題がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・普段の授業で、どの教科でもグラフや図を活用して何がわかるのか、比較した時の類似点や相違点は何かなどを問うようにしていく。</li><li>・過去問を解くことで、問い合わせの意味を理解したり、関連した文章を最後まで読んだりする練習を繰り返し指導していきたい。</li></ul>

### 【ご家庭では】

○子どもさんと日常の会話をたくさん行ってください。おうちの方との会話は、とても楽しいものです。その中で自然と思考したり、言葉の使い方を学んだりすることができます。また、話を聞いてもらうことは子どもたちにとって、心の安定にもつながります。

○日々の課題に取り組む時間の確保や習慣づけをしてください。毎日の音読をおうちの方が楽しみにしてくださると、子どもたちも進んで読むようになります。教材の内容が分かってくることで読解力もついてきます。また、漢字の宿題に、時々目を通してあげて、丁寧に書いていたらたくさんほめてあげてください。親子で触れ合いながら、学んでほしいと思います。

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算 数 》

### 全体の概要

- ・算数科の平均正答率は、県平均、全国平均とほぼ同じであり、県平均よりかは、少し上回っている。
- ・評価の観点で見ると、「知識・技能」は、県平均、全国平均とほぼ同じ、「思考・判断・表現」は、県平均とほぼ同じであるが、全国平均からは下回っている。
- ・領域別に見ると、「数と計算」「図形」「測定」では、県平均、全国平均とほぼ同じであるが、「変化と関係」「データの活用」では、全国平均より大きく下回り、得意不得意とする領域がはっきりしている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・棒グラフから項目間の関係を読み取ることはできている。</li><li>・平行四辺形の作図や内角の大きさについては、正しく理解している。同じ図形でも、台形になるとその意味や性質を理解できていない。</li><li>・問題を解決するために必要な数量を見出し、求め方や式を言葉で説明することができおらず、課題である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・図形の性質を形で何となく捉えているため、性質を説明させたり書いて捉えさせたりする経験を増やす。</li><li>・児童が主体的に自主学習に取り組めるよう、優れた自主学習ノートを各学級や、全校で紹介する。</li><li>・授業の最後に取り組む「まとめ・振り返りシート」を活用する。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・示された資料から必要な情報を選び、式に表して計算することはできている。</li><li>・分数の加法では、共通する単位分数を導き出せておらず、無回答が多い上に正答率も低い。</li><li>・計算に必要な条件を理解している割合は県平均と同じぐらいだが、それを式や言葉で説明できる児童が少ない。</li><li>・グラフや表、図形など、繰り返し学習する場面が少ない領域では、基本的な学習内容が定着できていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・通分、約分、分数の加減法に必要な九九を毎時間帯で唱えるなど、九九の定着を徹底していく。</li><li>・問題解決学習において、児童同士が主体的に考えを交流する「つぼみタイム」を各教科の実態に応じて取り組み、児童の思考力・表現力の向上につなげていく。</li><li>・グラフや表、図形に関する問題を何回も繰り返し取り組んでいく。</li></ul>

### 【ご家庭では】

○時々は、算数のノートに目を通してください。今、学習している内容や子どもさんの理解度を把握していただき、テストやプリントでの間違いと一緒に考えたり、正したりすることで理解につながってくると思います。また、九九の定着が不十分な子どもたちがいます。時には、一緒に九九を唱えてみてください。

○身の回りには、算数科で学んだことを生かす場面がたくさんあります。買い物でお金の計算をしたり、料理で調味料を量ったり、生活の中での必要性や便利さを生かす場を積極的につくっていただきたいと思います。

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 理 科 》

### 全体の概要

- ・理科の平均正答率は、県平均、全国平均より大きく下回っている。
- ・評価の観点で見ると、「知識・技能」は、やはり県平均、全国平均より大きく下回っており、「思考・判断・表現」は、全国平均からは大きくなっているが、県平均とはほぼ同じであった。
- ・以前は、問題の後半や、記述式の無回答率が多くなっていたが、今回は、全ての問題に取り組んでいた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・「エネルギー」を柱とする領域の「電気がつくる磁力」に関する問題や「水の行方」に関する問題は、県平均よりを少し上回る。</li><li>・実験器具や、実験や観察を実際に行った経験のあるものの名称は、身に付いている。</li><li>・実験器具の正しい扱い方が理解できていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・楽しく実験を行ったり、普段の生活に結びついたりしたものは、定着しやすいことが分かった。実験や観察を授業内で終わらせるのではなく、普段の生活にも結び付けるような仕掛けが必要である。</li><li>・実験の中で使える器具は、積極的に使うようにし、正しい扱い方や、手順を確かめながら扱う。</li><li>・主要な器具の扱い方は、何度も見ることができるように掲示をしておく。</li></ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>・数値のみの簡単な表の読み取りをし、それを基に説明することができる。</li><li>・「すべて」や「～であれば、」等の2つ以上の条件付きの問題文を正しく読み取ることを苦手としている。</li><li>・問題文や選択肢が長文になったり、複雑になったりしたとき、文章や表から必要な情報を取捨選択できていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・問題の解き方や、実験の仕方を考えさせてから取り組むようにする。</li><li>・普段の授業や生活の中でも、条件付きの問題に取り組み、慣れさせていく。</li><li>・一つの物事に対して、多角的な見方をするための話し合い活動を仕組んでいく。</li><li>・実験や観察から分かった「気づき」から、「問題」を立てる経験を、繰り返し積んでいけるようにする。</li></ul>

### 【ご家庭では】

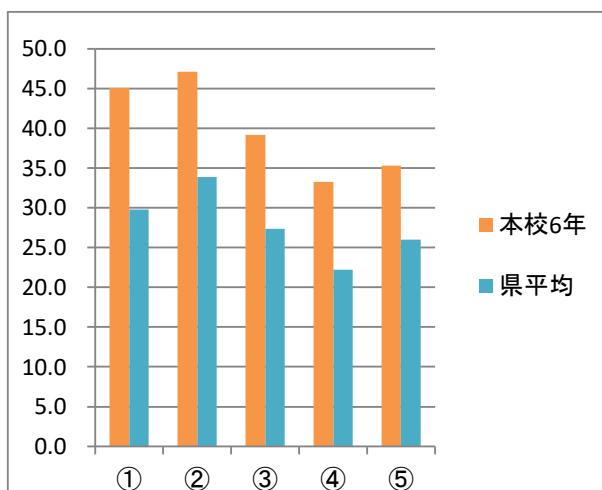
○持ち帰ったテストやプリント類に目を通してください、できているところはほめてあげてください。また、間違っているところを一緒に考えたり、自主学習で取り組むように声かけをしたりしてください。子どもさんが学習している内容を把握して、折に触れて話題にしていただけすると、子どもたちも、喜びます。さらに、おうちの方に教えようすることで自然と復習になり、身に付いてくると思います。

○算数科同様、身の回りには理科で学んだことを生かす場面がたくさんあります。太陽や星の動き、植物の成長の様子、水やお湯、氷の仕組みなど、生活の中で、理科に関する事象をご家族で探しめてください。

## ◆生活習慣や学習習慣に関する調査「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】(県との比較で特に上回った項目の順番で示しています)

調査の項目	
①	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。→「当てはまる」
②	授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。→「当てはまる」
③	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか。→「当てはまる」
④	自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図・表・グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか。→「当てはまる」
⑤	算数の授業でどのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。→「当てはまる」

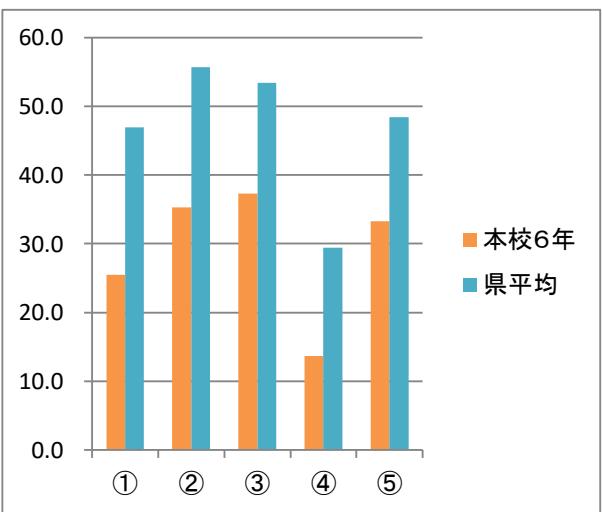


### 【分析と取り組み】

- 自分と違う意見について考えること、自分の考えを説明すること、ICT機器を使って発表することについては、意欲的で好んで活動する様子が見られる。普段から授業の中で話し合い活動に取り組んだことで、グループや全体で発表することに抵抗がないので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- 授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う児童の割合が県平均よりも大きく上回っている。実体験や生活と関連付けることを意識させたことで、勉強したことが役立ったと感じる児童が多かったので、今後も日常生活との関連を意識させた授業づくりに取り組んでいきたい。

【数値が特に低かった項目】(県との比較で特に下回った項目の順番で示しています)

調査の項目	
①	学校に行くのが楽しいと思いますか。→「当てはまる」
②	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。→「当てはまる」
③	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。→「よくある」
④	国語の授業で、先生はあなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか。→「当てはまる」
⑤	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか。→「当てはまる」



### 【分析と取り組み】

- 「学校に行くのが楽しい」と答える児童が県平均と比べ大きく下回っている。学校生活に充分満足している児童が減少傾向にあり、学習活動や友達関係で満たされていない様子が伺える。教師がより関わりをもち、活動の中で友達のよさを見つけていく必要がある。
- 「毎日同じくらいの時刻に起きている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童が県平均よりも大きく下回っている。規則的な生活の乱れがやがては心身の不調へと繋がる。また、「朝食を毎日食べている」児童も県平均より下回っていることから、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整えることを児童や家庭に伝えていく必要がある。